

サツキ 晴れ

Satsuki
bare

CONTENTS

- 01 Cure病気のおはなし
- 02 Care療養支援のおはなし
- 03 地域医療を知ろう
- 04 TOPICS
- 05 みよし市民病院を支えるチーム活動
- 06 みよしの健康診断予約受付中!
- 07 看護師・看護助手を募集中!



院長
メッセージ

新型コロナウイルス感染は心配ですが、他の病気が待ってくれるわけではありません。みよし市民病院では、発熱など感染疑いのある方とその他の方が、院内で接することがないように対策を徹底しています。過度に恐れず受診をお願いします。



ご自由
にお持ち
ください

SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
**LINKED
plus+**
病院を
知ろう

大学病院と連携し
心臓病から市民を守る。

内科・循環器科特集

みよし市民病院
Miyoshi Municipal Hospital

INFORMATION

みよしの健康診断予約受付中! 年に1度は、体メンテナンス

「コロナ禍で生活スタイルが変わった」「健康に気を使っているものの効果のほどはわからない」など、健康に関する不安や疑問はありませんか? みよし市民病院では、市内在住の方を対象に、特定健診やがん検診など各種健診(検診)を実施しています。1年に1度は、健康診断を受けて、ご自身の体をチェックしてみましょう!

こんなこと
気になっていませんか?



外出の機会が減り、
運動不足で体が重い。

コロナ禍での自粛生活で、1日の活動量が激減。消費エネルギーが低下しているものの、食べる量に変化なしという肥満のリスクが高い状態。



在宅時間が増えて、
つい食べ過ぎた。
ストレスで食事や消費スタイルも変化。
しのびよる生活習慣病のリスク。

健康のためにサプリを活用。
但し健康への効果はよくわからない。
健康への意識は高いが、効果測定が不十分。
健診で体のチェックが必要。

健診へ
Go!

皆さんに安心して受診していただけるよう、機器の消毒やロッカーの清掃など、感染対策を強化しています。

健診予約
お問い合わせ

みよし市民病院 健診室受付 TEL 0561-33-3303(直通)

予約受付時間 月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時(祝日を除く)

当院ホームページもご覧ください <http://www.hospital-miyoshi.jp/checkup/>

看護師・看護助手を 募集中!

(常勤・非常勤)

みよし市民病院では、
私たちと一緒に地域医療に
貢献してくれる仲間を募集しています。
まずはお問い合わせください。



〈看護師修学資金〉
制度もあります

詳しくは
こちら



お問い合わせ

みよし市民病院 管理課 TEL 0561-33-3300

病院広報誌 特設サイト

サツキ
晴れ

こちらから



地域の皆さんや連携機関の皆さんと
「みよし市民病院」を情報で繋ぐ、広報
誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひ
ご覧ください。



LINE(公式)アカウント

病院広報誌「サツキ晴れ」のLINE(公式)
アカウントを開設しました。
QRコードから「友だち追加」をお願いいた
します。



みよし市民病院
Miyoshi Municipal Hospital

〒470-0224 愛知県みよし市三好町八和田山15番地
TEL 0561-33-3300
<http://www.hospital-miyoshi.jp/>

サツキ
晴れ

発行責任者/院長 伊藤 治
発行/みよし市民病院 広報グループ
記事提供/中日新聞広告局
編集協力/プロジェクトリンク事務局
発行日/2020年10月30日

SPECIAL REPORT

大学病院と連携し 心臓病から市民を守る。

内科・循環器科特集

愛知医科大学病院・循環器内科と協力して
高度急性期から回復期、慢性期までカバーする。



CHAPTER 01 大学病院の医師を招き 外来やカテーテル治療へ。

「その後、動悸や息切れはどうですか。運動は続けていますか」。みよし市民病院の外来診察室で、そんなふうになやしく患者に話しかける医師がいた。令和2年4月、循環器科の非常勤医師として愛知医科大学病院から赴任した大橋寛史である。大橋は毎週月曜日午前中、心不全や不整脈などの症状を抱える患者を診察している。「みよし市には、真面目に治療に向き合おうという方が多いですね。私たちが食事や運動療法についてアドバイスすると、熱心に取り組んでくれるのでやりがいを感じます。心臓の病気は生活習慣病がベースにあることが多いですから、そこから改善することで重症化を防ぐよう努めています」と話す。

午前の診療が終わり、一息つく、大橋はカテーテル治療室へ移動した。この日、狭心症に対するカテーテル（細い管）を用いた冠動脈造影検査・血管内治療を担当することになっていたのだ。これは、カテーテルを血管内に通して心臓まで送り込み、心臓を取り巻く冠動脈を撮影。そこで、血管が細くなっている部位をバルーン（風船）で押し広げ、ステント（金属製の網）を留置して、血流を改善させる治療法だ。手術と比べて、患者への体の負担が少なく、安全性も高い。「血管内治療は大学病院でも行っていますが、それと同じ感覚でやらせても

らっています。この治療は医師、看護師、放射線技師、臨床検査技師のチームで取り組みますが、スタッフみんなが医療安全への高い意識を持ち、標準的な手技を安全確実に行っています。非常にレベルが高いチームだと思います」と評価する。治療後の体調管理は常勤医師が責任を持って担当し、スムーズな退院へ導く体制だ。

大橋は月曜日の業務を終えると、火曜日から大学病院の循環器内科に戻る。2つの病院を行き来する勤務体制について、どのように感じているだろうか。「もともと循環器を専門に選んだのは、急性期の命を救う治療から慢性期の治療までずっと患者さんに関われることに魅力を感じたからです。当院の外来には慢性期の方も多く、症例も幅広いため、とても勉強になります」。

COLUMN

●みよし市民病院と愛知医科大学病院の連携は、応援医師の派遣という以上の目的を持つ。大学病院に籍を置く医師2名が週1回ずつ、市民病院で勤務することによって、2つの病院間で顔の見える関係づくりが加速。市内で発生する循環器疾患は、市民病院がすぐい上げ、必要に応じて大学病院へ紹介。退院後は再び市民病院で体力を取り戻し、速やかな在宅復帰をめざす。その一連のサイクルを回していくことをめざしている。

CHAPTER 02 先進的な医療機器を用いる 治療は大学病院へ。

循環器科における2つの病院の連携は、どういう背景から生まれたのだろうか。院長の伊藤治は次のように話す。「当院の循環器科は精緻な手技が要求される血管内治療に積極的に取り組むなど、高い水準をキープしてきました。しかし、ここ数年医師不足に陥り、市民の皆さんに十分な医療サービスを提供できない状態でした。そこで、令和元年から愛知医科大学病院の循環器内科のご協力を得て、毎週月・金曜日の2日、医師を派遣していただく体制を整えたのです」。

前任者から引き継いだ大橋は「この連携を通じて、大学病院の医療資源をみよし市の皆さんにもっと積極的に提供していきたい」と意欲を燃やす。「たとえば、外来で弁膜症や不整脈などの病気が見つかった場合、大学病院へ速やかに紹介できます。大学病院では、大動脈弁狭窄症に対する経カテー

テル的大動脈弁留置術（TAVI）といった最新治療や、心臓外科もありますので、従来の外科的治療まで安全に提供できます。また、不整脈に対するアブレーション治療（詳しくは「病気のおはなし」参照）についても、多くの症例実績があり、安心して治療を受けていただけたと思います」。

その言葉にうなずき、伊藤は次のように話す。「最先端の医療機器を用いた高度な医療は大学病院にお願いし、当院は病気の早期発見、そして退院後の回復期リハビリテーションや再発予防を担当する。そうした役割分担を徹底することで、患者さんに高度急性期医療から回復期、慢性期の医療まですべてを切れ目なく提供できる体制が整います。また、高齢患者さんのなかには、併存疾患として心臓の病気を持つ人も少なくありません。そういった部分のフォローにも力を注いでいきたいと思います。心臓病が重症化する前のベストなタイミングで、ベストな治療を提供していくために、2つの病院はさらに連携を強化していこうとしている」。

BACK STAGE

市民病院が窓口となり 高度医療から在宅支援まで。

●先進的な医療を提供する大学病院、病気の早期発見と標準的な治療、在宅療養支援までを担う市民病院。ポジショニングの違う2つの病院が連携することは、みよし市民にとって大きな利益をもたらす。

●市民病院が窓口となり、市民に必要な循環器医療をコーディネート。大学病院での高度急性期医療から、市民病院での回復期、慢性期医療までを途切れることなく提供し、市民の命と生活を守っていく構えだ。



Cure 病気 のおはなし

先生、
教えて!

今回のテーマ

心房細動

脳梗塞の原因になる心房細動。
早期発見と治療が
脳梗塞の重症化を防ぎます。

心房細動は 不整脈の一つです。

心房細動は、心臓の拍動のリズムが乱れる不整脈の一つ。心臓の「心房」という部分が小刻みに震え、心房の中の血液が淀み、血の塊(血栓)ができやすくなります。その血栓が脳の血管に運ばれて詰まると、脳梗塞が起きます。また、心房細動の状態が長く続くと、心機能が低下していきます。

心房細動の原因はさまざまですが、高血圧、糖尿病、加齢などにより、自律神経による脈拍の制御が難しくなると、発症することがあります。

心房細動が疑われる場合は、心臓に流れる電流を体表面から記録する「心電図検査」や、心臓の大きさや動きなどを調べる「心臓超音波検査」を行います。

基本は、薬物療法。 カテーテルを用いた アブレーション治療も。

心房細動の治療の基本は薬物療法です。血液を固まりにくくし、血栓を防ぐ「抗凝固薬」、心臓の異常な電気刺激を抑える「抗不整脈薬」を、症状に応じて組み合わせます。

薬物療法では充分でない場合、カテーテル(細い管)を用いたアブレーション治療を行います。これは、静脈か

らカテーテルを挿入し、原因となっている心房の肺静脈の周囲に熱を加え、異常な電気信号が心臓の中に入らないようにする治療です。当院では、愛知医科大学病院をはじめとした連携先病院にてアブレーション治療を受けていただいています。なお、この治療は部分麻酔で行うのが一般的ですが、大学病院では全身麻酔でも行っているため、治療への不安感が強い患者さんにも、安心して治療を受けていただくことができます。



Message

無症状の心房細動も心電図検査で見つかります。

心房細動の治療の目的は、第一に脳梗塞の予防にあります。心房細動が原因で引き起こされる脳梗塞は重症化しやすく、命に関わることはもちろん、重い後遺症を残す可能性が高くなるからです。いち早く治療しておけば、将来、寝たきりになるリスクを減らすことができます。

心房細動の症状には、息切れや動悸、むくみなどがあります。その自覚症状から

診断に至ることもありますが、4割の人は無症状のまま進行するといわれています。そこで重要なのが、定期的な健診(検診)です。健診の心電図検査を受ければ、高い確率で心房細動が見つかり、早期に治療できます。コロナ禍で健診を先延ばしにしていた方も、ぜひ一度、今年度の健診を申し込むことをお勧めします。



内科・循環器科
大橋寛史
(非常勤医師・愛知医科大学病院所属)



食生活改善①

朝、昼、晩の食事は欠かさず、バランス良く食べて、規則正しい生活を心がけましょう。

Care 療養支援 のおはなし

今回のテーマ

循環器科のケア

患者さんの状態を観察し、
積極的に声がけを行うことで、
心身両面からサポートします。

病気を治すだけ
じゃありません。

急変を防ぎ、不安な気持ちを 和らげるよう心がけています。

循環器科が扱う急性心筋梗塞や狭心症、不整脈といった心臓の病気は、症状が出た段階で緊急性が高い場合も多く、一旦安定しても急変することがあります。その一方で、心臓手術などは体に大きな負担をかけるため、患者さんのなかには定期通院で様子を見ながら、長く病気とともに生活を続けているという人もいらっしゃいます。

そうした循環器疾患を抱える患者さんをケアする上で大切なのは、「小さな変化を見逃さない」と「患者さんの思いを聞く」ことです。前者は、異常を早期に発見し急変を防ぐため、後者は不安や恐怖心を抱える患者さんを精神的に支えるためです。

全身状態の観察と、 コミュニケーションが大切。

患者さんの小さな変化に気づくには、日常的にその相手をしっかり観察する必要があります。入院中であれば、常に近くに看護師がいるので安心ですが、外来ではそうはいきません。数カ月に1度受診するだけの方もいますし、せっかく受診しても医師に悩みや不安を話せない患者さんもいらっしゃいます。そのため循環器科の外来看護師

は、来院された患者さんの歩き方や採血時の様子、顔色など、全身の状態を丁寧に観察し、いち早く異変に気づけるよう意識しています。また、外来受診時やカテーテル検査・治療の際に、積極的な声がけを行うことで、患者さんの不安や悩みを聞き取り、和らげられるよう心がけています。

医師は限られた時間のなかで「病気」の診療を行います。私たち看護師の役割としては、それ以外の情報を集め、皆に伝えていくことが大切です。



Message

患者さんが安心して受診できるよう工夫しています。



左) 下川あずさ(内科外来看護師)
右) 井上美穂(内科外来看護師)

当院では令和元年度から2年度にかけ、大学病院から専門医を迎えるなど、循環器科の診療体制が大きく変わりました。そうしたなか私たち看護師は、今まで以上に「患者さんが安心できること」を意識してケアを行ってきました。医師の交代に関しては、新任医師に患者さんの情報をしっかり引き継ぎ、診察の際スムーズに話が繋がるよう事前準備を心がけてきま

した。また、カテーテル検査や治療においては、患者さんがリラックスして検査・治療に臨めるよう、開始前に私たちの顔を見せて、いつもの外来看護師が検査・治療に立ち会っていることを伝えるなどの配慮をしています。

当院はこれからも循環器疾患を抱える患者さんをチームで支えていきます。困ったことがあればお気軽にご相談ください。



食生活改善②

野菜は、ビタミンや食物繊維などの健康に有益な栄養素が豊富。毎日欠かさず摂りましょう。

地域医療を 知ろう

今回のおはなし

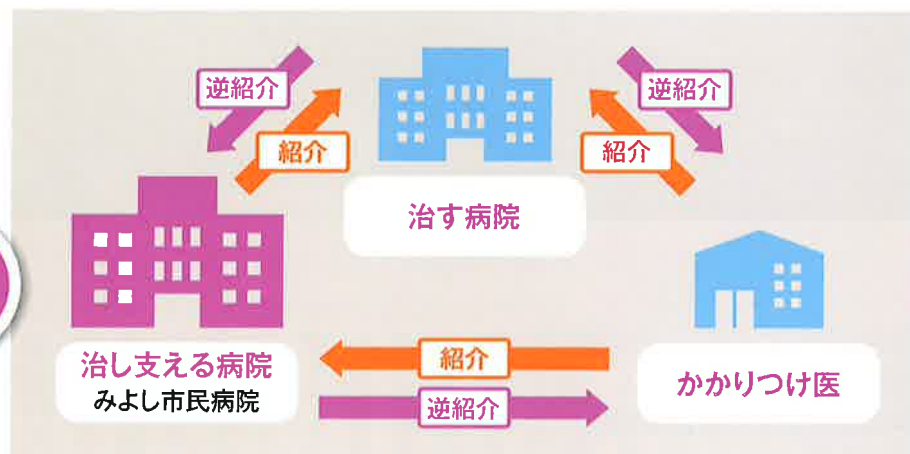
地域医療連携



〈地域医療連携〉
について
学びましょう

医療機関が役割を分担し、 連携して地域を支えています。

限られた医療資源で高齢化の進む社会を効率的に支えていけるよう、今、全国の医療機関では「地域医療連携」が推進されています。地域医療連携とは、地域の医療機関がそれぞれの機能や専門性を活かして役割を分担し、連携しながら医療を提供する体制のこと。大きく「病診連携」と「病病連携」に分かれます。このうち病診連携は、病院と診療所の役割分担・連携を指す言葉です。日常的な診療や健康管理・相談については地域の診療所（かかりつけ医）が担い、より専門的な検査・治療や入院が必要な場合には、かかりつけ医から病院へ患者さんを紹介するという体制が取られています。一方、病病連携は、病院同士の役割分担と連携を表す言葉です。主に、重症患者に対し短期集中的な治療を行う「治す病院」と、症状が落ち着いた後の生活復帰や在宅療養を支援する「治し支える病院」があり、緊密に連携しながら患者さんの状態に合わせた医療を提供しています。



みよし市民病院では

地域密着型の病院として医療と生活を繋いでいます。

当院は、市民病院として救急医療や一般的な病気の検査・治療を行うとともに、生活復帰や在宅療養支援も担う「治し支える病院」です。院内には、地域連携・医療相談室が設置され、診療所の先生方や、近隣の大学病院・高度急性期病院と連携しながら地域医療を支えています。さらに、医療機関だけでなく、介護・福祉サービスを提供する事業者や施設、地域包括支援センターなどの行政機関とも密に連携し、皆さんの安心な暮らしを支える体制を整備しています。

当院の強みは、「患者さんとの距離の近さ」。当院で診療する場合も、他の医療機関・介護事業者に繋ぐ場合も、家族構成や生活背景まで十分に理解した上でサポートすることが

できるのです。また、中小規模の市民病院である当院には、医師を含めたスタッフ同士ばかりではなく、市とも密に連携できるという特長もあります。今後は、こうした強みやこれまで築いてきた連携体制を活かすとともに、病診連携をさらに強化し、患者さんを支えていきたいと思っています。

地域連携・医療相談室
左) 尾崎真代(副室長)
右) 山田ゆかり(副看護師長)



食生活改善③

食塩の摂り過ぎに注意。だしを効かせる、酢を加える、香辛料を使うなど調理の工夫でも減塩できます。

TOPICS

病棟では味わえない季節感を リハビリで園芸療法を活用。

つややかなピーマンの緑、紅色のサツマイモなど、病院の一角においしそうな野菜が実っています。この野菜は、令和元年度より取り組んでいる園芸療法で収穫したもの。「園芸を通して、病棟内では得られない季節感を少しでも味わってほしい」と、当院のリハビリスタッフが中心となり、患者さんと一緒に野菜を育てています。

開始当初は、入院する認知症患者さんを対象に始めたリハビリの取り組みでしたが、今ではより広く対象を拡大。外で歩行訓練をしながら野菜を眺める、水をやる、収穫するなど、園芸を通じて患者さん自身を癒やす効果も期待されています。

スタッフも試行錯誤の毎日ですが、病院全体に活動の輪を広げていければと思います。興味のある方は、ぜひご参加ください。



みよし市民病院 園芸ダイアリー



空に向かって
ぐんぐん伸びるネギ。
とっても元気に育ってます。

大きさもかたちもいろいろ。
たくさんピーマンがとれました！



秋の代名詞でもあるサツマイモ。
病院食としても活用しました。



番外編
メダカもスイスイ
泳いでいます。



みよし市民病院を支える チーム活動

vol.3

救急委員会

急変した傷病者に対応できるよう、 すべての職員が救命処置を学んでいます。

当院の救急委員会では、院内外で発生した急変（心肺停止など）に対応するため、常駐の委託業者を含むすべての職員を対象にBLS研修を行っています。BLSとは、Basic Life Supportの略で、心肺停止・呼吸停止になった人に対する一次救命処置のこと。すべての職員がBLSを身につけることで、院内で急変が発生しても、医師などの到着を待たず、迅速に救命作業に移ることが可能です。

研修では、BLSに関するビデオ講義と模型を使った実習



を計1時間行い、周囲の安全確認、呼吸確認、心臓マッサージ、人工呼吸器具やAEDの操作などについて学びます。頻度としては、常勤者を対象とする研修と、パートタイマーを対象とする研修を、月に1回ずつ開催し、2～3年に1回、すべての職員がBLS研修を受ける仕組みになっています。

委員会では、BLSの他にも、ハートコールを導入するなど院内救急に力を入れています。当院ではこれからも皆さんの安心・安全を守るよう、取り組みを進めたいと思います。



食生活改善④

間食の摂り過ぎに注意。回数・量・質を考え、1日の栄養素の不足が補えるような食品にしましょう。